

Eat Well, Live Well.



日本農芸化学会2026年度大会 ランチョンセミナー

アミノサイエンス®で進化する バイオ医薬製造

CELL | ST™

～ 動物細胞培地の新しい可能性 ～

日時

2026年3月10日(火) 12時15分～13時05分

会場

B1会場 / RY201

プログラム番号

2LS3B1

キーワード

アミノ酸技術、バイオ医薬製造、遺伝子治療とウイルスペクター効率化

発表者

辻 ちひろ

味の素株式会社 マテリアル&テクノロジーソリューション研究所 ヘルスケアソリューション開発研究室

バイオ医薬品は抗体医薬など、先端医療を支える重要な製品であり、その製造には動物細胞が欠かせません。当社は長年培ったアミノ酸発酵技術を活かし、動物細胞培養用培地の開発に取り組んでいます。アミノサイエンス®を基盤に、Chinese Hamster Ovary (CHO) 細胞を用いたバイオ医薬品製造向け培地の最新技術をご紹介します。

樋口 拓哉

味の素株式会社 マテリアル&テクノロジーソリューション研究所 ヘルスケアソリューション開発研究室

遺伝子治療という、疾患の根本原因に対して遺伝子を改変または追加する最先端の治療法にも、アミノサイエンス®は貢献しています。今回は、遺伝子治療の概略から、業界課題であるウイルスペクター生産の効率化をいかに達成するかまで、幅広くご紹介いたします。

共催：味の素株式会社